

令和7年度

あきた型学校評価



秋田県立男鹿工業高等学校

目 次

総務部	1
教務部	2
生徒指導部	3
進路指導部	4
特別活動部	5
保健部	6
教育相談部	7
図書視聴覚情報部	8
機械科	9
電気電子科	10
設備システム科	11
1 年部	12
2 年部	13
3 年部	14

②	重点目標	1 儀式・行事、会議が充実したものとなるよう運営を行う。 2 各施設設備の点検を図り安全・安心な環境維持に努める。 3 新しい生活様式に対応したPTA活動とする。	P
③	現 状	1 関係分掌、団体と適宜連携し効率化を図っている。 2 施設設備点検簿を刷新し有効に活用している。 3 PTA活動に対する情報発信を行っている。	
④	具体的な目標	1 各種行事や会議を効果的に行う。 2 施設設備点検簿の改善を図る。 3 学年部と連携を深め情報を発信する。	
⑤	目標達成のための方策	1 行事や会議を有機的に運営できるよう情報を共有する。 2 設備点検が効率的に行われるよう点検システムの充実を図る。 3 ICTを活用し内外団体との連携を図る。	
⑥	具体的な取組状況	1 SchoolWare等の活用のみならず、職員間との会話を大事にしながら情報の発信と収集に努めた。 2 点検の実施有無をデジタル化にして、効率化を図った。 3 PTAや学校評議員との連絡をアプリやメールを使用したことで利便性が向上し、意思疎通も図ることができた。	D
⑦	達成状況	1 会議、行事等、各分掌と連携して実施することができた。 2 設備点検を徹底することで、効率化が図られている。 3 外部団体との意思疎通が学校運営の健全化に繋がっている。	
⑧	自己評価	(評価) A (根拠) 各関係機関と連携することができた。今年度から新たに船越こども園との合同避難訓練を実施した。クマ対策について、危機管理マニュアルの見直しなど、防災意識を高める対策が急務である。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A (意見) 船越こども園との合同避難訓練は、地域連携、貢献の視点からも良い取組と思います。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	火災や地震、津波、クマ対策等、有事に対する生徒・職員の行動を確認すると共に、環境の変化に対応した危機管理マニュアルを作成し、地域と連携しながら防災意識を更に高めていきたい。	A

②	重点目標	1 評価改善と授業改善の推進 2 教務規程の検討 3 教員研修の充実		P
③	現 状	1 年度始めに各科目のルーブリックを作成し、評価規準の明確化を図っている。 2 年間を通して、規程の検討を継続している。 3 校外研修について、随時情報提供をしている。		
④	具体的な目標	1 生徒の学習の成立を促す学習評価と、それを踏まえた授業改善 2 教育目標および現状と合致した規程の検討 3 個々のキャリアステージに応じた資質能力の向上		
⑤	目標達成のための方策	1 ルーブリックを活用して、妥当性のある学習評価を行う。授業アンケートの結果を分析・共有し、授業改善を図る。 2 規程の運用について他分掌とも情報交換し、内容の検討を図る。 3 研修の案内を積極的に発信する。		
⑥	具体的な取組状況	1 ルーブリックの評価規準に則り、学習評価を行っている。授業アンケート、相互授業参観、試行授業の実践・公開を行った。 2 履修認定基準について一部改正した。 3 研修案内を随時、SchoolWareのメッセージでお知らせした。		
⑦	達 成 状 況	様々な取組により、授業改善重点事項に沿った授業づくりの意識が浸透してきている。		D
⑧	自 己 評 価	(評価) B	(根拠) 教員研修については、個々の主体性に委ねられており、教務部として研修の充実に向けての手立てや工夫を図る必要がある。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 相互授業参観が高校でも行われていることは、授業改善の具体的な取組としてとても有効だと思いました。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	授業改善の取り組みとして、授業アンケートや互見授業をより効果的に実践できるようにする工夫が必要である。指導と評価の一体化を意識しながら、組織的な授業改善に繋がる取り組みを継続していきたい。		A

②	重 点 目 標	基本的生活習慣の確立		P
③	現 状	・整容や登校状況、遅刻欠席等に関して概ね良好ではあるが、意欲や活力あふれるという状況ではない。		
④	具体的な目標	・基本的生活習慣を確立することにより、より元気で活力あふれる校内環境を整えたい。		
⑤	目標達成のための方策	・全職員による整容指導の徹底と、日々の継続した生徒観察。 ・元気なあいさつの実践や、時間厳守、スマホの適正使用などの徹底した指導。		
⑥	具体的な取組状況	・年6回の整容指導と校門指導、学年部・学科の指導を徹底した。今年度から2回以上再指導になった生徒は、生徒指導主事厳重注意とした。 ・校門指導・学年集会・全校集会・LHRで指導を徹底した。今年度から教務も加わり、時間厳守の徹底を図った。		D
⑦	達成状況	・ほぼ全員の生徒が、整容・立ち止まってのあいさつを励行することが出来た。生徒指導主事の厳重注意もいなかった。 ・教務も加わることによって、全職員で意識できた。		
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 生徒指導部を中心に、学年・学科で徹底したことにより、今年度も工業高校生としての基礎・基本ができた。自主的に行動できる生徒が年々増え、工業高校らしい、元気で活力のある男鹿工業になっている。	C
評価基準				
A : 具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた				
B : 具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない				
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 地域においても、あいさつを交わすことのできる生徒が多くおります。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	「継続は力なり」来年度も基礎・基本のできる生徒を育てていきたい。		A

②	重点目標	生徒の主体的な自己理解と進路選択		P
③	現 状	卒業生の離職者・中退者数が少ないことから、生徒の進路選択はうまくなされていると考える。第1希望への内定・合格率は85%～90%台を推移している。		
④	具体的な目標	- 日々の学習活動や行事、部活動等を通して自己理解に努めさせる。 - 自己理解を基にして早期に進路目標を設定させ、達成に向けた取り組みを充実させる。		
⑤	目標達成のための方策	(1) 進路希望調査の有効活用 (2) 企業・学校理解のための情報提供と指導の充実 (3) 進学、公務員指導の充実（教科、学年部との連携）		
⑥	具体的な取組状況	- ガイダンス機能の充実（各学年の進路ガイダンス、ハローワークによる就業支援セミナー、専門工事業者による体験会、男鹿市・県内企業による企業ガイダンスへの参加） - 進路の手引きをPDF化した。また、求人情報をクラスルームを使用し、家庭でも閲覧・検索できるようにした。 3年生全員が職場見学会、オープンキャンパスに参加した。 1・2年生を対象にベネッセ総合学力テストを実施した。		D
⑦	達成状況	概ね目標達成のための取組がなされていると考える。3年生の進路内定・合格状況は例年と同様であったが、県外就職者の割合が増えた。また、就職・進学を希望しない生徒がでなかった。		
⑧	自己評価	（評価） B	（根拠） - 第1希望内定率92%、進路未定者0人 - 県内就職率68%、県外就職率32% - 進学希望者全員が第1希望で合格できた。 例年、数名ではあるが不合格者がでている。	C
↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	（評価） A	進路先内定状況について、指導の成果があらわれていると思いました。教員アンケート、保護者アンケートからもそれが伝わります。	C
⑩	自己評価及び関係者評価の改善策	自己理解を元にした進路目標達成のために様々な情報提供と指導の充実を図りたい。		A

②	重 点 目 標	・ 全校生徒参加による主体的な生徒会の活動と部活動の活性化		P
③	現 状	・ 生徒会執行部を中心に学校行事を企画・運営しているが、他動的に参加している生徒も見られる。部活動では上位大会を目指して活動しているが、生徒数減少により部員の確保が難しくなっている。		
④	具体的な目標	・ 全員参加型の生徒会活動を通して、人間性や社会性を育成する。 ・ 意欲のある部員を確保し、部活動全体の活性化を目指す。		
⑤	目標達成のための方策	・ 生徒会執行部・各委員会のリーダーを育成し、全校生徒の意見・要望を取り入れた主体的な活動を計画・実行する。 ・ 強化指定部を中心に特色選抜での生徒の確保や環境整備を図る。 ・ 外部への情報発信と地域等の外部との連携を図る。		
⑥	具体的な取組状況	・ 学校行事を生徒会執行部・各委員会のリーダー中心に滞りなく計画・実行できている。 ・ 男工祭では部活動の演武を披露し、情報発信に努めた。 ・ 特色選抜での生徒確保に向け、運動部顧問の先生方と調整を行っている。		D
⑦	達 成 状 況	・ 生徒会執行部・各委員会の生徒を中心に全校生徒一人一人が主体的に活動し学校行事を盛り上げた。また同窓会の協力のもと企画を充実させた成果を期待したい。		
⑧	自 己 評 価	(評価) B	(根拠) 生徒会執行部を中心に学校祭を盛り上げることができたが、来場者数を増やすためにも飲食の充実なども考えたい。部活動の活性化について、検討を図りながら取り組みたい。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 教室に委員会作成のおたよりが掲示されていました。 地道な取組もなされていることが良いと思います。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	・ 今後さらに学校行事を活性化するために、体育的行事を増やしたり、工業高校の特徴を活かした学校祭の企画を工夫したりする必要がある。 ・ 特色選抜の出願は昨年と比べると3名増加した。部活動活性化のためには、環境整備をさらに進め外部にアピールしていく必要がある。		A

②	重点目標	校内の環境美化を推進する		P
③	現 状	黒板周りのチョークの粉の清掃が不十分なところもあり、電子黒板が汚れていたり、内靴に粉が付着することがある。		
④	具体的な目標	黒板の下の教壇、電子黒板の汚れをしっかりとる。		
⑤	目標達成のための方策	1 通常清掃で黒板の粉受けのブラシによる清掃を適宜取り入れる。 2 大清掃の際は、必ず黒板周りの拭き掃除とクリーナーの水洗いをを行う。		
⑥	具体的な取組状況	1 通常清掃で黒板の粉受け清掃状況はクラスによっては、必ずしも十分とはいえなかった。 2 大清掃の際の黒板周りの拭き掃除とクリーナーの水洗いはおおむね実施されていた。		D
⑦	達成状況	通常の清掃はおおむねよくなされていた。 大清掃においても丁寧な清掃がなされていた。		
⑧	自己評価	（評価） B	（根拠） 通常の清掃はおおむねよくなされていたが、黒板周りの粉はすぐに汚れてしまうので、大清掃のときだけでなく、適宜水拭きの必要性を感じた。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） 黒板周りの粉まできれいに保つのは難しいと思いますが頑張ってください。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	一学期と二学期は大清掃まで間があるので、中間考査あたりのタイミングで拭き掃除を取り入れる。		A

②	重点目標	・組織的な教育相談活動を推進する。	
③	現 状	・昨年度の生活状況調査から、スマホの使用時間増加に伴う学習時間の減少、朝食を摂らない生徒の増加の傾向が見られる。体調の悪さや対人関係の問題等で保健室を利用する生徒も多く、各学科や学年部と連携し対応している。複雑な背景の家庭を持つ生徒が多く対応に苦慮している現状である。	
④	具体的な目標	・生徒が抱える悩みや問題点の早期発見、早期対応と自殺予防啓発の推進。	P
⑤	目標達成のための方策	・学年部、生徒指導部等タテ・ヨコの連携を図りながら、生徒に関する情報を共有する場を作る。 ・生活状況調査等を実施し、その結果を面接に活用する。 ・スクールカウンセラーとの情報交換の充実を図る。	
⑥	具体的な取組状況	・リモートによるスマホ・ケータイ安全教室（4/18・1年生） ・面接週間（6/6～13・C日課） SOSの出し方講座（11/14・1学年） ・生活状況調査（11/21・全学年） ・SCによるカウンセリング（月1回）	D
⑦	達成状況	生活上の悩みを抱える生徒に対しては個別に、担任と養護教諭を中心に教育相談部、学年部、学科が連携しながら対応した。また、SCによるカウンセリングを毎月実施している。	
⑧	自己評価	（評価） B （根拠）生活上の悩みを抱える生徒に対し、担任と養護教諭を中心に教育相談部、学年部、学科が連携し、丁寧に対応することができたが、それでも不登校生徒や進路変更し学校を去って行った生徒が複数人いたことは残念であった。SCのカウンセリングを定期的に受けている生徒は、落ち着いて生活を送ることができている。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
⑨	学校関係者評価と意見	（評価） B （意見） 様々な状況の生徒がいる中、SCのカウンセリングが機能しているのは、現代ならではの感じました。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	SCを活用したカウンセリングを継続し、多様な生徒に柔軟に対応するとともに、職員間での連携を密にする。気になる生徒の情報を学年部や学科と共有することで、早期対応に努める。	A

②	重 点 目 標	・ 生徒および職員の読書活動を推進する。 ・ デジタル環境を整備する。		P	
③	現 状	昨今の生徒の読書離れにより図書館利用者は少ないが、一部の生徒ではあるが、昼休みの読書や放課後の自学をしている様子も見られる。パソコンやタブレットの円滑な運用と環境整備が必要である。			
④	具体的な目標	・ 良書を選定し蔵書の充実を図り、情報発信をする。 ・ 1年生へ図書館の利用方法を周知する。 ・ ネットワークやI C T機器の保守に努める。			
⑤	目標達成のための方策	・ 1年部と連携し、入学時早々に図書館の利用方法を周知し、その後の利用につなげる。 ・ タブレット等について、日ごろの保守管理を徹底する。			
⑥	具体的な取組状況	・ 寄贈された中高生新聞を図書委員が毎週新しい新聞に貼り替えた。写真も多いためか、立ち止まって読む生徒も出てきている。 ・ 購入図書で、資格試験のテキストや課題研究で調べ学習に利用出来そうな図書を準備し、貸し出した。 ・ タブレットの使用方法について、新たなルールが設けられた。。		D	
⑦	達 成 状 況	・ 購入図書で資格試験用テキストを準備し貸し出したことにより、合格者が多数出た。 ・ 毎週更新される新聞によって、ニュースに関心を持つようになった。			
⑧	自 己 評 価	(評価) B	(根拠) 図書補助職員のご協力により、順調に新しい書籍を購入することができ、一部の図書は資格試験等の補助教材として生徒の学習に役立てられている。今後も、授業改善や学力向上に結びつくような取り組みをしていきたい。	C	
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない					
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 資格試験の学習や課題研究に活用できる図書を増やし、本来の図書館としての環境が整ったように感じる。	C	
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	生徒の学習意欲や学力向上につながる図書の購入と、図書視聴覚委員による中高生新聞の更新によって、社会情勢にも目を向けられるような環境づくり、また、少人数の利用者ではあるが、静かに読書を楽しめる空間づくりをしていきたい。			A

②	重点目標	・ものづくりを通して、総合的な人間力の育成を目指す。 ・安全教育の徹底を図る。		P	
③	現 状	・機械に関して興味が乏しく、基礎学力が不足している生徒や他者の話を聴く力が不足している生徒が増えてきた。			
④	具体的な目標	・わかる授業、できたという達成感が得られる授業を目指す。 ・協調性を持ち、他者と協力して問題解決できる生徒を育成する。			
⑤	目標達成のための方策	・わかりやすい授業を心がけ、基礎・基本の定着を図る。 ・授業や教育活動を通して、聴くこと・話すことを中心にコミュニケーション能力を鍛え、生徒が自ら考え、行動できるようにする。			
⑥	具体的な取組状況	・実習時の作業を通して意思の疎通を図り安全に作業する指導をした。 ・授業において、生徒が考えるための時間を設け、自分の考えを発表させることに努めている。		D	
⑦	達 成 状 況	・安全第一を合い言葉に怪我につながらないようにコミュニケーションをとりながら作業することを徹底できた。 ・自分の考えをもつことはできても、自分の言葉で発表したり、相手の意見を聞いて考えたりする力が不足している。			
⑧	自 己 評 価	(評価) B	(根拠) ・安全面での指導は実習時を中心に徹底できた。 ・対話的授業を積極的に取り入れて、生徒のやる気を引き出す工夫をしていきたい。	C	
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない					
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 危険が伴う学びの中で、大変でしょうが頑張ってください。	C	
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	引き続き実習科目においては、安全教育の徹底をはかり、怪我や事故がないよう行っていきたい。また、資格取得の意欲がわくような授業展開や対話的授業の機会を増やすなど工夫しながら、生徒のやる気を引き出したい。			A

②	重点目標	・社会の一員として社会や地域に貢献できる生徒の育成をめざす。		P
③	現 状	・義務教育段階の積み残しがある生徒が多く、進路実現に向けて具体的に行動できる生徒が少ない。		
④	具体的な目標	・安全に関する事項を常に意識して行動できる生徒を育成する。 ・資格取得への挑戦を通じて学び続ける意識を醸成する。 ・工業科の学習活動を通じて職業観・勤労観を醸成する。		
⑤	目標達成のための方策	・安全に関する内容は、実習・実技科目を中心に、「なぜ・どのように」を丁寧に指導する。 ・第2種電気工事士試験の取得を勧め、朝・放課後補習や授業を利用して指導する。 ・各種講話や授業をととして電気エネルギー及び電子技術の社会的役割を分かりやすく指導する。		
⑥	具体的な取組状況	・工業基礎、実習、課題研究といった実技科目を中心に整列指導や実験をととして常に安全に意識するように指導している。 ・資格取得についてはSHR前及び放課後の時間を使い補習を行った。生徒も受験に前向きである。		D
⑦	達成状況	・各学年ともベルと同時に整列点呼できる状態になってきている。服装も概ね良好であり、実習に対する心構えができており、実験中も安全に対する意識が高まってきた。 ・計算技術検定は19人中18人の合格、第2種電気工事士も合格率こそ高くないが挑戦者が増加している。現2年生に第3種電気主任技術者に取り組み1科目合格する生徒ができた。		
⑧	自己評価	（評価） B	（根拠） 安全に対する心構えはできている。計算技術検定、第2種電気工事士の受験者、合格率を増やしていきたい。卒業時には、第2種電気工事士を取得できるように指導を続けたい。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	（評価） B	（意見） 義務教育の学び残しがある中、資格取得に向けて教育していて素晴らしいです。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	進路指導と絡め、第2種電気工事士取得のメリットを生徒や保護者に今まで以上に伝えていきたい。また、上位資格にも挑戦するように勧めていきたい。		A

②	重点目標	・基礎学力の向上と定着に努める。		P
③	現 状	・基礎学力の低い生徒が増えている。 ・コミュニケーション能力が低く、自分の思っていることをうまく表現できない時がある。		
④	具体的な目標	・基礎・基本を重視し、生徒の実態に即した指導を行う。		
⑤	目標達成のための方策	・資格取得（計算技術検定や危険物取扱者）など具体的な目標を設定し、学習方法を身に付けさせる。 ・進路を意識させ、主体的に行動できるように指導する。		
⑥	具体的な取組状況	・1年生を対象に計算技術検定3級、危険物取扱者丙種の受験指導を行っている。 ・2年生を対象に危険物取扱者乙種四類受験指導を行っている。 また、基礎製図検定の全員受検を昨年度から実施している。 ・2．3年生を対象に3級配管技能士の資格取得を奨めている。 ・2．3年生を対象に第二種電気工事士試験に取り組ませた。		D
⑦	達 成 状 況	・1年生の計算技術検定の合格率は70.6%（12／17） ・基礎製図検定の合格率は46.4%（13／28） ・第二種電気工事士試験上期2／4 下期2／4（筆記試験まで）		
⑧	自 己 評 価	（評価） A	（根拠） 計算技術検定は職員全員で協力しながら、達成度の低い生徒に対して個別に指導することができた。基礎製図検定においても計画的に指導することができた。	C
↑ 評価基準 A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない ↓ C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	（評価） A	（意見）基礎学力やコミュニケーション能力の低い生徒を資格取得に導いていて素晴らしいです。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	資格については、科職員全員の力である程度の結果を残せたと思う。しかし、基礎学力のみならず、生活全般について基本的な態度が身につけていない生徒に対して、さらなる指導を要する。来年度に向けて、今から軌道修正できるよう努める。		B

②	重 点 目 標	基本的生活習慣の確立と基礎学力の定着をめざし、一人ひとりが充実した高校生活を送れる集団を形成する。		P
③	現 状	入学直後の緊張感のある中で、ほとんどの生徒が健康的で遅刻や欠席がなく提出物などの届け出も順調である。授業への姿勢も良好である。少数であるが、学校生活に慣れるにしたがって意識が緩慢となり、遅刻や欠席、提出物、場に応じた適切な言動などに心配な生徒が見られる。		
④	具体的な目標	・ 時間、期限、約束を守れるよう指導を徹底する。 ・ お互いの人格を尊重させ、社会性のある生徒を育てる。 ・ 授業を大切にし、落ち着いた学習環境をつくる。		
⑤	目標達成のための方策	(1)あらゆる学校活動の場面において、時間や期限の厳守、あいさつや正しい整容、適切な言動がとれるよう指導する。 (2)授業や学校行事、清掃活動などの共働の場面において、生徒同士が互いに人格を尊重し活動できる集団となるよう指導する。 (3)基礎学力の定着と考える力の向上を生徒に意識させ、授業や家庭学習を大切にするよう指導する。 (4)学年部職員全員で、学科の垣根を越えて積極的に連携を取り指導にあたる。		
⑥	具体的な取組状況	・ 授業や生徒面談を通じて得た気づきについて職員間で情報共有をしている。 ・ 進路指導部など他分掌と連携を密にしてHR活動を充実することにより、生徒の人間性や社会性を育てている。 ・ 基礎学力の定着や資格検定取得を目指した補習活動を適宜実施している。		D
⑦	達成状況	・ 担任、副担任を中心に生徒との関係性を良好に保っている。問題行動にあたっては速やかに対応できた。 ・ 外部講師による講演を充実させ、学校ではなかなか得ることが難しい学びを提供することができた。		
⑧	自己評価	(評価) B	(根拠) ・ 学校生活に慣れるにしたがって、生徒個々の人間関係や生活状況、進路や生き方の目標設定の変化に対応しているが指導に難しい生徒がいる。HRや学年集会を通じて個人および学年全体の底上げを図りたい。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B	(意見) 外部講師の活用は、生徒への良い刺激になると思われる。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	外部講師の活用は、キャリア教育を中心としながら生徒一人一人の生きる力を充実させるような企画を今後も検討し実践していきたい。 基礎学力を充実させるとともに専門的な知識を身につけさせていきたい。		A

②	重点目標	1 キャリア教育を通して職業観を育て、進路実現への意欲を高められるようにする 2 集団への帰属意識や規範意識を高められるようにする 3 基礎学力の向上により、自らの可能性を広げられるようにする	P
③	現 状	1 進路実現に対する意識の個人差が大きい 2 周囲への配慮に欠ける者、規範から逸脱することで目立とうとする者も散見される 3 高校生の本分の自覚に乏しい者が目立つ	
④	具体的な目標	1 インターンシップなどの活動を通じて、職業や経済活動への理解を深める 2 自他を尊重する精神や規範意識の醸成を図る 3 授業へ真剣に取り組む、社会に出るために必要な一般常識、教養への理解を深める	
⑤	目標達成のための方策	1 学年・学科・進路指導部が連携し、特にインターンシップ事前指導に力を入れる 2 ホームルームや授業、集会等あらゆる場面を通して、共通理解による生徒指導を行う 3 授業を大切にすることを育てるため、学年と教科担任が連携して指導に当たる	
⑥	具体的な取組状況	・各学科・進路指導部と連携し、学年部職員も事業所訪問などで例年以上に関わり、インターンシップは成功裡に終わった。 ・規範意識、時間厳守について授業やホームルーム等、色々な場面で指導を継続している。 ・教科担任から授業や生徒の様子についてヒアリングを行った学級もあり、学年部・教科担任・学科と情報を共有し、指導の参考にしている。	D
⑦	達成状況	・インターンシップを経て、高い進路目標を掲げる生徒も出てきている。 ・規範から逸脱することが格好いいといった、偏った考えが一因で周囲へ迷惑をかけたり、本分である学業を軽視したりする生徒も相変わらず見られる。	
⑧	自己評価	(評価) B (根拠) まだ一部だが進路実現への意欲が高い生徒も増えてきており、集団の牽引役として育てたい。それに伴い、生活面を含めて意欲に欠ける生徒との差が広がっている。全体の底上げと上位者育成は矛盾するものではないので、修学旅行後はこれらの指導の両立に一層努めたい。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない			
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) B (意見) 統合前の卒業学年として、引き続きのご指導により、よさの伸長につなげていただきたいと思います。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	最高学年として、基本的な生活習慣の指導を継続しつつ、団体戦の意識を醸成して一人一人の進路実現を支援したい。	A

②	重点目標	学年全員の進路実現を目指す。		P
③	現 状	進路への意識が漠然としており、目標が明確でない。 上級生としての落ち着きのある行動や言動ができない生徒がいる。		
④	具体的な目標	進路目標を明確にし、将来への意識を高められるよう指導を行う。 落ち着いた行動やあいさつ、時間厳守などの社会人としての基本を身に付けさせる。		
⑤	目標達成のための方策	進学・就職の具体的な情報提供や個人面談、保護者面談の実施など細やかな対応をする。学年部・各科・進路指導部と連携して進める。 学校生活の様々な場面で進路を意識した行動をさせるようにする。		
⑥	具体的な取組状況	進路ガイダンスや個人面談、四者面談などを早め実施し、生徒の進路意識を高めるようにした。 学年・各科・進路指導部と情報交換を密に行い、授業や様々な場面で、生徒への声かけや指導を連携して行うようにした。		D
⑦	達成状況	進路に向けた指導を学校全体の協力を得て行うことができ、現在大学受験を控えた生徒1名を除く全員の進路が決定した。		
⑧	自己評価	(評価) A	(根拠) 各科・進路指導部との連携により、ほとんどの生徒が進路目標を達成することができたが、社会人として必要な生活の基本を今後も様々な場面で指導して行きたい。	C
評価基準 A：具体的な活動がなされ、概ね目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、一部目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない				
⑨	学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) 進路等の目標の達成に向けた指導の積み重ねが、よくなされていたことと思いました。	C
⑩	自己評価及び学校関係者評価に基づいた改善策	全員の進路が決定したが、4年制大学等への進学を希望する生徒に対する継続的な指導の必要性を感じる。生徒が様々な選択肢から進路目標を決定できるような指導を1年次から行う必要がある。		A